

ドミノ遊び  
さいび園(石川県金沢市)

[5歳児]

<ドミノ遊びのねらい>

ドミノの角度、方向、距離などを考え合わせながら、工夫してドミノの道を作る。  
友達と一緒に遊ぶ中で、お互いの意見や考え方を尊重したりコントロールしたりしながら、目標に向かって協力し合う。

<経過>

午後のおやつ後の時間、2階の5歳児の保育室で、2~3人がドミノを並べ始める。

それを見た回りの子が「混ぜて」と言い、だんだん参加人数が増えていく。しばらくすると子どもたちの中から「1階まで並べよう」という声上がり、「子どもたちの中での目標」が決まった。

<保育室からドミノを並べていたときの様子>



見守るお友達

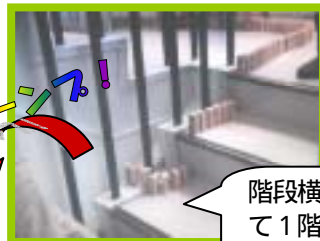
階段を一段下りる度に背が届かなくなって、ジャンプしながらもドミノを倒さないように並べていきます。

行き止まりのドミノと階段を下りるドミノ。2つのコースに分かれます。

1階までドミノを並べることを目的に、担当場所を個々が自分で決めて、みんなでドミノを完成させています。



一番並べやすいのはドミノに近い目線になること。一つでも倒れたら先の部分を作っている友達のドミノまで倒してしまうから、慎重に並べています。



階段横の斜面を滑らせて1階のドミノとつなげる計画

とうとう部屋を飛び出しちゃった!!



いよいよ倒します!  
みんながドミノの行方を心配して、後を着いていきます。



保育者が感じたこと

子どもたちが「保育室から1階まで並べる」という目標を決めたことで、1階までの長い道のりの中にあるたくさんの困難・課題(廊下の曲がり道、階段、分かれ道など)を越えなければならなくなった。しかし、「自分たちで決めた目標」だからこそ、「なんとかして達成させたい」という思いが出てきて、ここまで必要を感じて、子どもたちが考えていったのだと感じた。

曲がり道、段差、分かれ道、など、保育者が「曲がった道ができる?」「階段みたいに並べられるかな?」などと声を掛けてアプローチしなくても、子どもたちがやりたくて始めたドミノ倒しの遊びの中で、

- ・ 段差を続けて倒していける並べ方
- ・ 曲がり道を止まることなく倒せるような並べ方
- ・ 分かれ道を作ってより難しい道作りの挑戦 など、考えるきっかけがたくさんあった。

子どもたちに目的があり、必要があればいろいろ考えて実行していくのだと思った。

1つの遊びに、5歳児が協力して目標を達成しようとする姿が、とても頼もしいと感じた。

改めて、子どもたちがやりたい時、試したい時に、いつでもできるような環境と、子どもたちが最後まで満足して遊ぶことができる時間を用意することが、保育者の役割だと思った。